

## 令和4年度 学生 FD CHAmiT 学部提案書に基づく学生への回答書

日本大学では、FD 活動に学生の声を反映させながら教育力の向上を目指すべく、平成 25 年度より、16 学部 87 学科、短期大学部 4 学科、通信教育部を対象に学生・教員・職員が一堂に会して学生 FD や本学の教育について理解を深め、気軽な雰囲気の中で語り合う「日本大学 学生 FD CHAmiT (ちゃみっと)」を開催しております。全学規模のイベントとなっており、例年、各学部等から 200 名以上の参加者を得て開催しております。令和 2 年度及び令和 3 年度においては、コロナ禍の影響により、オンライン (Zoom) 開催いたしました。

第 10 回目となる令和 4 年度においては、対面又はオンラインのいずれかの参加方法を選択できるハイブリッド方式で実施いたしました。コロナ禍を経験した今だからこそ、改めて大学で学ぶ意義等について話し合い、自身が思い描いた大学生活の理想と現実のギャップについて、意見を出し合い、最終的に理想的な大学生活を送るために大学に求めたいことを学部単位でまとめ、「学部提案書」を作成いたしました。

これを踏まえて、効果的な教育改善の実現に繋がるよう、薬学部において学生との協議の場を設け、学生・教員・職員の三者で協議した上で「学生への回答書」を作成いたしましたので、御覧いただきますようお願いいたします。

今後も薬学部では、教育の質や改善について検討を重ね、より良い教育環境づくりに努めていきます。

日本大学 FD 推進センター  
日本大学薬学部 FD 委員会

# 令和4年度 学生FD CHAmmiT 学部提案書に基づく学生への回答書

## 【薬学部】

### 1 学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和5年1月24日	CHAmmiT参加者（教職員含む）及び学生スタッフ、学生等の計9名がZOOMを介して、学部提案書の実現に向けて1時間30分の意見交換を行いました。

### 2 学部提案書の対応について

#### 学部を「理想の学部」にするための提案について

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
LMS（学修管理システム）を利用した小テストや課題が多いため、iPadやパソコンを使用する頻度が高くなっているため、学部に充電設備を作って欲しい。		○		充電設備は、安全面（床下の電源コードの使用など）や効率的なレイアウトを考慮した上で設置する必要があります。現在、学部として対策を検討しています。パソコンなど電子機器を使用する授業において、教室のコンセントの配置状況などを考慮していない点があることも分かりました。教員側がこのことにも配慮して使用教室の選択すること、また、授業での電子機器使用についても、あらかじめLMS等で周知することについても検討を進めています。現状では、ご自宅で充電を完了した上で講義に臨んでください。
小テストの閲覧制限や期間制限の改善を行い、（解答に対する）フィードバックを徹底して欲しい。		○		LMS上の小テストに期間などの制限を設けることは、効果的な授業を行う上で必要な処置です。速やかに学生の理解度を確認し、次の授業などでフォローアップする必要があるからです。一旦、解答提出を締め切り、採点などを行った上で、必要に応じて再度視聴できるようにしている科目も多いと思います。また、フィードバックの方法についてもLMSの解答提出直後にリアルタイムで示される科目がありますし、次回の授業で行っている科目もあります。LMS上の小テストの再掲やフィードバックは、可能な限り対応できるように周知します。
他学部との交流が少ない。薬学部はキャンパスが独立しているので、他学部の学生との関わりがほとんどないので、医療系学部での連携（オンラインでの他学部講義受講など）をできるようにして欲しい。		○		授業に関しては、相互履修科目として他学部の授業を受講できるので、そのシステムを利用してください。このシステムを広く周知する必要があることや他学部の授業をオンラインで受講できるシステム構築の必要性も分かりました。なお、医療系学部では、医学部、薬学部、看護専門学校の学生らによる専門職連携教育（Interprofessional Education: IPE）が導入され、当初の希望者のみの参加から1学年全員参加の必須に移行するなど充実を図っています。
各科目の学ぶ目的の明確化。教員側から学ぶ目的について話して欲しい。		○		各科目のシラバスの「授業概要及び目標」に詳述されていますのでご覧ください。この内容を初回の授業において口頭でも伝えられるように検討を進めます。また、各科目の相互関連については学部要覧内の履修要項に薬学部履修系統図が記載されていますので、併せてご覧ください。
レジュメなどのコピー代で費用がかさむ。無料でコピーをできるポイント（コピーポイント制度）を導入して欲しい。		○		授業に関する資料のプリントアウトは、1号館3階で無制限で行うことができます。今回の協議で、このことが十分に周知されていないことが分かりました。周知に努めます。また、プリントアウト以外に実験データの共有などでコピー機能が必要なことも分かりましたので検討を進めます。これ以外の個人的なコピーについては、個人負担となります。
自分達の学部では実技を重要視しているが現実としては少ない。もっと実技やグループワークを増やして欲しい。		○		コロナ禍の影響で、リモートで受講する学生も少なくなく、グループワークが満足に行えない状況にありました。また実習においても可能な限り簡潔に行っていました。来年度からは全面対面授業の予定ですので、実習やグループワークも従来通り行います。

※令和5年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。

### 3 薬学部から学生へのメッセージ

FD CHAmmiTと今回の協議で、学生が教育に求めていることが明確になりました。すぐには解決できない問題もありますが、可能な限り対応していきたいと思えます。学生と教員が協議することは、学修の質を高める上で非常に大切です。継続して協議していきたいと思えます。
---